

## 第 4 回 学校運営協議会

令和 5 年 1 月 25 日（水） 2 時 30 分

### 出席者

副会長	新井 利勝
コーディネーター	小野 修平
委員	鈴木 綾
委員	友田 弓子
委員	矢崎 慶（副校長）
	海老塚京子（教員）
	小川 壮司（教員）
	宮崎 孝平（教員）

### 1 副会長あいさつ

今年度の学校運営協議会も今回を入れてあと 2 回、皆様の貴重なご意見をうかがえたらと思います。

### 2 各委員からの報告

#### ○本気のかくれんぼ

昨年 11 月に教師と保護者の会の方と一緒に、本気のかくれんぼ大会を開催した。子どもたちが元気に活動する姿を拝見できて良かった。

#### ○放課後ステイルーム

久しぶりに 3 学期の放課後ステイルームを開催する予定である。感染対策をしながら行いたい。

#### ○学校評価について

次回の学校運営協議会で、保護者アンケートと教職員アンケートの結果を踏まえて学校関係者評価を行っていただきたい。

学校評価計画表の設定基準等を参考にして考えておいていただきたい。

委員：次回の学校運営協議会で評価をするということか。

副校長：そのとおりである。学校評価計画表に基準的なことが記載されているので、それを基に評価していただきたい。

委員：学校評価計画表の 4 項目の中の「業務改善・働き方改革」について、短期経

営目標の「生徒・保護者・地域住民の期待に応える教育活動をする。」はどちらかというところ、「健全育成」にあたるのではないかと。

副校長：いろいろな捉え方があるが、教職員の働き方改革からすると、地域教育活動・学校行事をどのように改善していくか、「業務改善・働き方改革」に入れざるを得ないと思う。来年度以降考えさせていただきたい。

委員：地域側という言い方で良いかわからないが、先生方の働き方改革の中でいろいろな活動をされるのは理解できるが、目的を考えると最終的には生徒がどう育つかではないか。そうすると運営のしかたについては、業務改善・働き方改革に関わると思うが、活動自体の中身はアンケートからのご意見を集約したうえで評価させていただく。

### 3 熟議「地域学校協働活動の方向性」

#### ○これまでの取組について

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を進めてきた中で、推進委員として2年間取組ませていただいた。まず、地域学校協働活動とは何か知っていただくことと、そこに関わる担い手、関係者を増やすことを目的に様々な取組をさせていただいた。

#### ・学校応援団プロジェクト第1弾「玄関扉のペンキ塗り」

令和3年度末(2/23・26)地域の方とペンキ塗りをすることで、生徒が気持ち良く学校生活を送れるようにするとともに、3月の卒業式、4月入学式に合わせて行った。

コミュニティ・スクールのモデル校として、地域学校協働活動の一つの切り口として学校応援団をやるということで、募集対象や広報の方法、申込受付の仕組み構築等の課題を精査しながら、新たな担い手を発掘し、今後の学校活動に繋げることを目的に実施した。

参加者：生徒・卒業生地域住民・教職員・関係機関職員等 計20名

成果：参加者は楽しく活動でき、全員から今後の取組にも関わりたいとの意思表示があった。申込方法もグーグルアカウントを使って、QRコードを市報に掲載し、学校に負担がかからないように実施できた。

#### ・学校応援団プロジェクト第2弾「玄関扉・下駄箱のペンキ塗り」

7/29・8/1に第1弾で余ったペンキと使い、在校生とともに玄関扉の裏側と下駄箱の塗装作業を通して、今後の地域学校協働活動に向けたアイデアを聞きながら、交流できる機会として実施した。

参加者：生徒（延べ 26 名）、・教職員・関係機関職員等 計 44 名

成 果：多くの生徒、職員とコミュニケーションを取りながら実施することができた。生徒にとって楽しく、有意義な活動となった。

・地域学校協働活動アイデア出しワークショップ

地域学校協働活動を推進するにあたって、アイデアを共有し、関係性も大切にしながらどんなことをやっていけたら良いか一緒に考えることを目的に行った。

10/15(土)道徳地区公開講座の 4 校時に、1 年生の生徒・保護者を対象に、先生のご協力で 25 名の卒業生も加わって良い交流ができ、具体的なアイデアが多く出された。

50 分授業の中で地域学校協働活動の説明をしたうえでワークショップも行ったため、急ぎ足になり、深めるには時間の不足を感じた。

また、先生による声掛けがなければ、卒業生に参加を呼びかけることはできない。

参加者：第 1 学年生徒・保護者・教職員・卒業生 25 名・地域学校協働活動推進委員等

成 果：多くの卒業生が参加し、具体的なアイデアが多く出された。

・アイデアのまとめ

11/4(金)放課後、ワークショップ参加者 1 年生学年委員 5 名により、ワークショップで出た意見をまとめてもらった。

やってみたいこと…文化祭、学習面でサポートしてもらおう（放課後ステイルーム等）、防災・安全に関すること、ゲーム・スポーツを通していろいろな人と交流を深める

こんな明保中だったら良い…部活、校則、制服、校舎等  
一方で、企画もやってみたいという意見もあったが、先輩や卒業生と対決するのは良いが、一緒に企画するのは少し怖いという意見もあった。

○令和 4 年度末の取組について

地域学校協働活動の令和 5 年度への橋渡しとなる取組を行いたい。1 年生有志を中心に、アイデア出しワークショップのまとめにあったスポーツ大会を企画し、卒業生、地域住民等にも呼び掛けて行いたい。

○令和 5 年度の方向性について

令和 5 年度は以下の 3 点を柱に地域学校協働活動を推進する。

- ① 在校生が地域学校協働活動に受け身だけでなく、主体的に関わる機会を増やし、卒業後も地域や学校の活動に関わり続けることを狙う。
- ② 卒業生の協力を得てチームとして取り組み、既存の組織や保護者、地域住民にも周知、参加してもらえるように促していく。
- ③ 地域学校協働活動の取組を積極的に発信し、令和3年度に作成した Google アカウントも効果的に活用していきたい。どのような活動をするかはこれから考えていきたい。

委員：ワークショップを拝見して、生徒たちが楽しそうにやっていたのが印象的だった。自分たちで企画して一から十までやるのは大変だが、やり遂げると嬉しいと思う。スポーツ大会を学年が変わる前の春休みにやるのは良いと思うが、大人たちはそう関わっていくか考えなくてはいけない。

委員：失敗しても良いからやってみることが大切である。

委員：途中で何が起こるかわからないが、最後は怪我なく終われて良かったと思いたい。

委員：私一人ではサポートできないので、地域の大人がどう関わるか考えたい。

委員：大人たちが準備すると、自分たちでやっていると感ぜない。やってみないとわからないので、そういう経験をしてほしい。みんなのできるスポーツは何があるか。ドッチボールはどうか。

教員：年度末にどの学年も学年委員を中心に、球技大会を企画・実行する。地域学校協働活動の取組は、1年生が中心に企画して1年生がスポーツをやるのか、全校生徒に呼び掛けて参加できる人がやるのか。1年生がスポーツをやると、学年委員が企画するのと同じになる。

委員：球技大会が同じ時期にあるのか。

教員：春休みに入る前、3月下旬あたりに行う。

委員：球技ではなく、レクリエーション的なことはどうか。企画もやりたい中学生がいてほしい。参加者は多様な人で良いが、学校行事ではない位置づけで地域主体で学校という場を使いながら、いずれ学校応援団という形で生徒が卒業しても関わっていけるようにしたい。

委員：学年が上がる前に中学生が中心でやるなら、6年生（新中1）を招待したらどうか。

委員：チラシを6年生全員に配布してしまうと、集まる人数が多くなる可能性がある。

委員：チラシではなく、ポスターを掲示して呼びかけたらどうか。

委員：中学生だけでは安全管理や誘導など、難しい部分を卒業生に力を借りようとする

ると、人数や仕事の内容を考える必要がある。

委員：卒業生との繋がりで考えると、今年度の放課後ステイルームに卒業生が来てくれたことが、中学生にとってすごく嬉しく、憧れの存在だということが感じられた。地域が高校生、大学生になった方々と何らかの形で繋がりが持てると良い。中学生、卒業生同士が繋がっていく第一歩がここから始まったら嬉しい。

委員：大勢というより、ピンポイントで長く続けられる方が集まってもらえたら嬉しい。放課後に最低3～4回くらいは生徒と話し合いたい日程が合うかわからない。どのような生徒が興味を持って参加してくれるかという不安もある。

教員：集まってくれたのは、後期の学年委員で、活発に意見交換できてアイデアも出してきて、部活でも核になり、委員会も兼ねていて忙しい生徒が多いが、時間にゆとりがある生徒はあまり積極的ではない傾向がある。卒業生に声をかけるなら、1か月以上前に日程を伝える方が集まりやすい。何かのきっかけで学校に来たい卒業生はたくさんいる。

1/9の「二十歳(はたち)のつどい」の後に急遽卒業生が50人くらい集まって、先生と面識がなくても中学校に来られて喜んでいて、きっかけ次第だと思う。

委員：日程さえ合えば来るのはできるが、事前の準備等で約束して来てもらうのは難しい。1/9にたまたま明保中の前を通ったら、たくさんの新成人が写真を撮っていて、中学時代に思いを持っているのを感じた。放課後ステイルームに来てくれた卒業生も今も先生と繋がっているからこそありがたい。

委員：中学生と一緒に何かできる場を作っていきたい。イベント企画をやるのが目的ではない。最短ルートで3月下旬に行きたい。

委員：年度が変わると難しい。

委員：6年生を招待するという意見もあったが、最初は卒業生だけにして規模を小さくするという事もできる。

委員：何をするか考えなくてはいけないが、春休みに何かやってみるというのは、時期的には面白いと思う。

委員：生徒を集める方法も決めたい。

委員：学校評価の中に「目立たない生徒も含めて、生徒が活躍できる場面を設定する」とある。こういう子に呼びかけたらどうか。

委員：時期的なもの、内容的なものの議論が出ているが、この時期どうか。

委員：時期的なことは、高校生、大学生に声をかけるのは、やはり1～2か月前でないと難しい。

委員：学校側は平日と土日ではどちらが都合が良いか。

委員：職員の協力を仰ぐとなると、基本的には平日の方が都合が良いが、校長の判断になる。

委員：平日パターンと土日パターンで考える。

委員：実施する方向で、中学生に対する声掛けを進めるように報告する。

委員：そこが熟議の「地域学校協働活動の方向性」になるのかと思う。何ができるか、  
どういう狙いを持ってどういう方向でやっていくかというところである。

委員：まず、最初に実施したい中学生を決める。

委員：やっていくことで、将来的に中核を担って、繋がり続ける人が出てくれたら  
良い。その入り口として年度が変わる前に1回実施したい。手伝っていただけ  
る方がいるとありがたい。

委員：6年生のことを考えると、小学校を卒業してから入学前に中学校に行ってみた  
いと思えるのではないか。

委員：例えば企画が中学生、企画運営を中学生と卒業生、参加者が小6という形はあ  
りだと思う。

委員：明保中が、1年生が新中1を迎えてあげるイベントを地域学校協働活動として  
やっているという形になっていくと、枠組みとして繋がっていく。卒業しても  
思い出して手伝いに来てくれる。中学生の球技大会は何をやるのか。

委員：学年によって違う種目や、複数の種目を行うこともある。

委員：ドッジボールはどうか。市内で一時期ドッチボールが盛んだった。

委員：内容は中学生に任せようと思う。企画の段階で、理解していない大人が関わり  
すぎないようにしたい。企画は中学生、当日の運営は中学生と卒業生、参加は  
小6（新中1）で、当日までの企画を行う生徒を募集したい。

委員：企画する生徒をどう呼びかけるか。

委員：これまで保護者、地域住民、関係機関、育成会を含めた既存の団体とどう連携  
を取るかあまり考えてこなかったため、今まで繋がっていなかった方と繋がろ  
うということでペンキ塗りから始めてここまで来た。

委員：東小の育成会は、明保中に関わらせていただいているが、育成会とコミュニテ  
ィ・スクールがどういう関係かよくわからない。地域で活動している団体と学  
校運営協議会と既存の団体が話をする場が欲しい。育成会がやりたいことと明  
保中の学校運営協議会が考えていることをすり合わせる場をどこかで作れな  
いか。

委員：地域学校協働活動は、活動をやりつつ目指す方向に向けて活動し、あり方や関  
係性の話はこの学校運営協議会の熟議で行うため、必要だということを示せば  
良いのではないか。

委員：呼びかけようと思っている相手に、何をしようとしているかが上手く伝わらな  
いと、協力するのが難しい。

委員：今の状態は、コミュニティ・スクールの一環として協力依頼が来るが、前の段

階のコミュニケーションということである。

委員：私たちの立場がわからないのが正直なところである。

委員：明保中は、最初のコミュニティスクールのモデル校のため、手探りの部分があったが、運営主体と活動主体が分離することを最終目標にして、提案・立案と実働の両方を行ってきた。これまで活動してきた結果、熟議して方向性を示して、提案主体、議論主体になることがベストであると思う。学校運営協議会は、地域の関係者や経験者を増やして、熟議が偏らないようにしなければいけない。そのための人材の発掘も必要である。議論や提案主体に場になっていくために、実働部隊との連携ができて、実働部隊が育っていけば相互の関係が良くなると思う。団体が完全に出来上がっている地域もあるが、そうでない地域も活動できるように実働部隊を育てていこうという考えがある。

委員：育成会は育てていただかなくてはいけないとは思っていない。育成会は育成会の考え方でやってきているが、明保中の学校運営協議会との関係がよくわからないのが事実である。どこの育成会も課題を抱えている。既存の団体と話をした方が良い。コミュニティ・スクールとは何をするのか、理解した上での話を承っていなかった2年間だった。先へ進もうと思うと、明保中に関係のある小学校の育成会に声をかけて話し合う場があったら良い。

委員：コーディネーターが全てを企画して繋いでというのは難しい。既存の団体から協力を得て、新たな人材を発掘する仕組みを学校運営協議会で考えて、実働部隊が活動するという仕組みを作るためにも、今ある育成会と話し合う場を設けてほしい。ただ、そういうつもりでなくても、地域から見ると下請けのように感じる。

委員：東小の育成会は何でも一緒にやりたいと思っている。

委員：自分たち主体でやってきた活動の意義が何か、手伝いをするためでなく目的があってやっている。

委員：担い手の関係でいくと、学校によっては次の世代が育っていないところがいつつもあって、育成会自体が今後どうなっていくのか大きな問題だと思う。どこの学校も運営連絡協議会だったのが、運営協議会になっていくと、それぞれの地域の団体がどう参加したらよいか考えると思う。明保中が最初にスタートしたので、校長先生も難しく思われてお力を注がれたと思うが、これからのことを考えると、既存の団体とどう関わっていくかは一つずつ積んでいった方が良い。

委員：そこで活動するといつものメンバーになってしまうので、新たな人材発掘をしなければならない。

委員：小学校の子どもたちのため、小学校に通う地域の子どもたちのために、いろい

ろ活動したいと考えている団体で、明保中はその中の一つであり全てではない。学校運営協議会の中で育成会の関わりがどこまで期待されているかわからない。来年度、東小の育成会は明保中とどのように関わっていくか課題になってくる。

委員：先生方は、授業・部活など学校教育が中心で、私たちは授業・部活以外で何ができるか考えて広げていかなければいけない。来年度は、既存の団体との連携、コミュニケーションをとる場を作ることが課題になってくる。

委員：地域の団体からすると保護者や OB が地域を通して、学校に返していこうという思いがあるから、学校に対して参加させてもらえるのはありがたい嬉しい。新しい仕組みの学校運営協議会ができたが、どう関わるかわからないまま始まった。

委員：皆さんがそういうご意見を持っていることに正直びっくりしている。インターネットで「学校運営協議会」と検索すると、親子で芋掘りをした、地域の商店街で花を植えた、学校の掃除をした、などたくさん出てくる。そこまで到達するには相当な時間を要していると感じる。育成会の疑問点は簡単に解決できる問題ではなくて、学校運営協議会で一つずつじっくり解決していく問題だと思う。個人的には、東小の育成会を取り込む必要はないと思う。育成会も地域の方なので、地域の一人としてアタックしていけば良い。東小も学校運営協議会が始まれば、地域の方が東小にシフトするから、今後の効果を頭の隅におきながら活動したい。学校側が地域の方を招くだけでなく、子どもたちが地域に出ていく、例えば子供たちが商店街の PR をするなどもありかと思う。ここは協議する場だと思うので、じっくり話を積み上げていって3月末までのスポーツ大会に向けて粛々と進めていくべきである。

委員：育成会と中学校の関係を良くしていきたい。いろいろな形で育成会として関わりたいが、育成会として明保中に手伝いに行くというのは違う場所に来ている感覚があって、どこかで整理しないとすっきりしない。

委員：顔が見える場で皆さんの考えを教えてもらうというより、いっしょに考えた結果を学校運営協議会に持って帰るのが良い。

委員：どこかで設定していただくと、個人として関わっているという気持ちになる。

委員：やることが先にあって、その中に狙いがあるが、今回は何をやるのかというより方向性のみで目的意識だけを提案した。

委員：次回、令和4年度最後、皆さんのお知恵を拝借できたらと思う。

※ 次回 令和5年2月15日(水) 14:30～